

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4572000752		
法人名	特定非営利活動法人 仁秀会		
事業所名	グループホーム たいよう	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北6219-42		
自己評価作成日	平成25年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosvCd=4572000752-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosvCd=4572000752-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年2月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

昨年5月に二号館が開所し、新しい入居者の皆さんを迎えました。毎日が新鮮であるとともに慌ただしく過ぎている事も事実です。しかし、二号館に面会に来られる方は多く、ホームに来やすい環境が自然に出来ているのかと感じています。まだまだ山を登り始めたばかりのホームなので、皆さんが健康で幸せに過ごせるよう職員は頂を目指して邁進したいと考えます。一号館は今年で9年目となります。100歳と99歳の方がおられ、「ご長寿ホーム」と言われています。他の入居者の方も「あやかりたいね」と言われ、お二人の笑顔と優しさに皆さん生きる力と元気をいただいています。お互いが生活をする大事な仲間であり、助け合う心は今年も大切にしたいと思えます。毎年書いていますが、一番は入居者の皆さんが幸せに暮らせるように支えていく事、職員はその為に謙虚な姿勢と感謝の気持ちを持つことを心掛けています。太陽のように明るく温かいホームを目指して努力するだけです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは、運営者の地域に根ざし、認知症患者を助けたいという思いから2号館も開所し、管理者、職員のチームワークもよく、利用者が穏やかに居心地よく過ごしている。新人職員も理念を共有・理解し、日常的に実践につながるよう取り組んでいる。接遇マナーチェックも行われ、利用者が日々幸せに暮らせるよう、常に心掛け努力している。運営者、管理者、職員の関係もよく、笑顔が絶えず、その環境が利用者にも反映され、利用者は笑顔で、その人らしく生活している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の皆さんが、安心した生活が送れるような理念を作成した。職員の目につく所に掲示し、常に意識して仕事に取り組むようにしている。会議等でも理念を再確認している。		理念は、職員全体で話し合い決定している。新人職員も会議等で確認・共有し、また、掲示されている理念で常に意識し、実践につながるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の商店や神社の祭りに出掛け、知人に会う等してきた。小学生との交流や中学生の職場体験を受け入れており、交流する機会は増えている。		ホームは自治会に加入し、地域の祭り等の行事には利用者と参加している。近隣の住民とは日常的な交流が図られ、小・中学生と交流する機会も作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム側から、働きかける機会はあまりない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年から消防団の方が参加することになり、色々と意見をいただく機会となっている。会議で出された意見等は、職員会議で報告し、サービス向上に活かしている。		運営推進会議には、町議や消防団の方も参加するようになり、活発な意見交換や助言を得る機会となっている。災害対策については、助言を基に計画し、サービスの向上に生かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、担当者には参加していたが、現場の様子を伝えている。役場主催の研修にも参加してきた。		市町村担当者とは、日常的に密に連絡が取られ、協力関係作りができています。役場主催の会議や研修会にも参加し、協力関係を築く取組が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、鍵をかけない支援を行う事の意味等、全職員が理解・認識するように会議で話し合いを行ったりしている。		職員会議時に、日常的に話をしている。議題として取りあげ、新人職員への周知を行い、マニュアルも作成している。管理者、職員は、身体拘束を理解し、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加し、学ぶ機会を得ている。職員会議で、施設長からも話があったり、職員の言葉や態度も虐待になる事を話し合っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学ぶ機会は少ない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書を用い、時間をかけて説明を行っている。家族の理解や納得が得られるように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来られた時に(現在の状況と支援内容を報告している)、要望等を聴くようにしている。家族同士が話し合える機会を作る事ができなかった。		年1回、家族会を設けている。排せつへの誘導や入浴の件などの要望には、できること、できないないことの説明を行い、要望に応えるよう努めている。	家族からの要望は少ないが、職員が要望を引き出せる技術を身につけるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング等で、職員からの意見を聞くようにしている。職員は、直接施設長に意見を言うことで、現場の声を届けることができ、施設長は職員の思いを感じ取り、運営に活かすようにしている。		施設長、管理者は、職員の意見を聞く機会を十分にもち、聞きやすい関係作りができています。手すりの設置や棚の補充など、すぐに対応し、職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者が、機会があるごとに各職員の状況を話し合うようにしている。実績に応じた昇給や資格・職種に応じた手当、希望休・有休を取得できるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議を活かし、認知症の勉強会等を行っている。法人外では、グループホーム連絡協議会や色々な分野の研修に全員が参加できるように努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修や懇親会等に積極的に参加している。ネットワークを広げて、情報交換の場としている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の現在の状況を理解するようにしている。不安に感じていること、これからの事について、話が出来る時間となるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が現在置かれている状況や思いを知り、受け止めるように努めている。時間をかけて、話をさせていただけるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を聴いて、何が必要なのか、検討するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることは、自分で行うように声かけや一緒に取り組むことを心掛けている。あまり手出しをしないように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会にいつでも来ていただけるように、来訪しやすい雰囲気作りに努めている。ご家族からも、自宅への外出や食事・墓参りや法事等の支援をいただいている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から、馴染みの場所や人について聞くようにしている。日々の会話の中から行きつけのお店等が分かり、時折出掛けることもしている。	利用者や家族、会話の中から、なじみの場所や人について、聞き取るよう努めている。なじみの理・美容や花屋、お墓参りなど、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の入居者の会話や行動、表情等を通して、関係の把握に努めている。帰りたいたい人に、「ここにいれば安心。一緒に泊まるよ」と声を掛けられる場面も見られている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り先の関係者に対しては、本人の状況をまとめた情報提供書を渡すようにしている。ご家族には、いつでも相談できる事をお話している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に希望等を聞くようにしている。なかなか言えなかったり、分からないと言われる方には、会話を工夫することで、言葉を引き出すようにしている。会議等で、本人の思いを把握するようにしている。	利用者同士の会話の中から、一人ひとりの思いをくみ取るように努めている。職員は、家庭のような環境作りに配慮し、思いを引き出し、本人本位となるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に、これまでの暮らし等を聞いている。携わった仕事や日課、行きつけのお店や人等を知り、ホーム生活に活かせるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は各々で違う事、その日の行動等、見ながら把握するようにしている。体調によっても変わるので、職員間ではミーティングで感じた事を話すようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の様子や会話の中から、確実に言葉を集めたいと考える。職員全員が本人の気持ちを知ることで、入居者の方が何を求めているのか、会議等で意見を出すようにしている。入院等で、状態に変化があれば見直している。	毎月モニタリングを行い、3か月ごとに見直しを行っている。家族の希望は、来訪時や毎月の支払いに来られた時に聞くようにしている。職員は、日々の会話を重要視し、記録に反映させ、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事は、介護記録や連絡帳に書いたり、ミーティング等で話し合うようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が業務だけでなく、病院受診や個別の外出等に携われるよう、配置している日もある。限られた人数ではあるが、少しでも柔軟な対応ができるように努力している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住んでいた地区の婦人会の方が、敬老のお祝いに来たり、タオル等の品物を寄付していただくことがあった。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医からは、月に一度の往診を受けている。検査や入院が必要となれば、家族の希望する病院での治療を受けられるように支援している。	利用者や家族の希望で、掛かりつけ医の受診支援を行い、協力医の毎月の往診も受けている。入院時の情報提供書の作成なども行い、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人のいつもの状態(血圧、体温、食事、排泄等)を把握し、少しでも変化があれば、看護師に報告している。入浴時には全身の状態を観察し、皮膚疾患等があれば見てもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の情報提供書を作成し、渡している。面会時には状態を見たり、担当医師や看護師から治療方針を聞いたり、退院に向けた話し合いを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の現在の状況は常にお伝えしているが、今後、急変や重度化していくことも併せて話している。ホームで出来る事は最善を尽くすが、出来ない事もある。医療的な措置が必要となれば、入院する必要も出てくる事も伝えるようにしている。看取りは、基本、行わない方針である。	ホームとしては、基本的に看取りは行わない方針としている。利用者、家族には契約時に話し合い、重度化した場合には、段階的に話し合い、掛かりつけ医とも連携を図りながら、チームとしての支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法やAEDの使い方の訓練を年に一度、実施している。新人職員は、まだ実施できていないので、訓練を予定している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間を想定した避難訓練を行った。防災会社と契約を結び、消火訓練、3月には避難訓練を行う予定である。非常食や水等の備蓄体制も少しずつ整えている。	年2回の訓練を実施している。自動通報装置も整備され、備蓄体制も整えられている。消防団との夜間想定訓練が計画されており、地域との協力体制を築いている。	地域消防団との訓練も計画されているが、今後計画を実行し、地域との協力体制が構築されることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい表情や態度を常に意識し、入浴や排泄時等、気持ちを傷つけないように配慮している。大きな声で名前を呼んだり、排便等の有無を聞かないように、職員とも確認している。		言葉掛けには日常的に意識し、優しい表情を心掛けている。また、入浴や排せつ時にも配慮している。管理者も随時注意を喚起するなど、一人ひとりを尊重した対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で決める事が億劫で、職員に委ねる方や、決めたいけれど職員に迷惑をかけると思ってしまう方もいるように思う。思いを表し、考えて決められるよう、会話やかかわり方を工夫したい。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時、まだ寝ていたい方はゆっくりと起きていただき、朝食も後から食べられるようにしている。全体で動いてしまう事が多いので、その中でも希望に沿える事を見つけていきたいと思う。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選べる方には、その日の服を選んでいただき、居室で髪を結われる方には鏡を用意し、身だしなみを整えられるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	揚げ物や巻き寿司作り、味付けや下ごしらえ、盛り付けに配膳、下膳等を担当している。食前・食後の台拭き、お盆拭きも交代して行っている。畑で採れた新鮮な野菜を使ったり、いただきものの果物やおかずを皆さんと食べている。		四季折々の旬の食材をメニューに使用するように工夫している。利用者は、能力に応じて料理の手伝いや下せん、台ふきをしている。職員も同じ食事をし、さりげない支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分量を把握している。食欲のない方は、補食を用意し、無理なく食べられるように、飲み込みの悪い方はとろみをつけ、誤嚥しないように気を付けている。食器が重いような方には、軽めのお椀類を準備する等している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、歯磨き、入れ歯磨きを行うようにしている。自分の歯を塩で磨く方もいる。口の中の状態を観察すると同時に、入れ歯の不具合がないか確認している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、皆さんトイレで排泄されている。排泄時間を記録し、失敗なく排泄できる支援を心掛けている。自立している方には、その力を維持できるよう支援したいと考えている。	職員は、排せつチェック表を利用し、利用者の排せつパターンを把握・誘導を行っている。利用者全員が日中はトイレを使用し、排せつの自立に向けた支援が行われている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後にはトイレに座り、自然排便を促すようにしている。水分量を増やす、軽体操を行う、散歩に出掛ける等して、薬の使用を減らせるように支援している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽に入る事が困難な方にはリフトを使用し、湯船につかる事が出来るように支援している。一人ひとり時間をかけて、ゆっくり入っていただけるように努めているが、入浴の時間は職員の多い昼間に固定している。	入浴は、1対1で昼間に行われ、希望のある利用者には、毎日入浴の支援が行われている。浴槽に入り、ゆっくり入浴ができるよう、リフトを使用しての支援も行われ、一人ひとりに応じた入浴がなされている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に居室で過ごしたり、ソファで寛いだりされている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作成し、どんな薬を飲んでいるのか、どんな症状であるか等、把握できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の興味や関心のある事を見つけるようにしている。掃除や洗濯物たたみ、おしぼりや新聞たたみ裁縫等、それぞれに行っている。生け花や書道等をされる方もいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣のデイや2号館へ知人に会いに出掛けたり、自宅近くの畑を見に行ったり、墓参りに行く等している。ぶどう狩りや四季の花々を見にドライブに出掛ける事もあった。	日常的に、隣接しているデイサービスや2号館に出掛けている。近隣の商店への買い物や散歩にも出掛け、四季に応じてブドウ狩りなどのドライブに出掛けるなどの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持していると安心する方には、本人に持っていてほしい（実際に使うことはない）。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時はかけたり、家族からの電話を取り次ぐようにしている。手紙や年賀状を書く事も行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度を保つように、四季に応じて対応している。家族の方が花を持って来られたり、散歩のついでに花を摘んで生けたりしている。手作りの装飾品を飾る等、季節を感じられるように工夫している。		共用の空間には、利用者みんなで考え、利用者が習字で書いたホームの年目標が掲げられ、四季に応じたはり絵も飾ってある。また、日中はみんなで過ごせるようにソファを置き、季節感も感じながら居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室では、少人数で過ごせるように、テレビやソファを配置している。しかし、リビングで過ごす時間が長くなっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスやベッドを置いている。家族と一緒に写真やお孫さんの写真、手紙等も飾っている。誕生日のお祝いをした時の写真も併せて壁に貼っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	寝具は、ベッドや布団と各々であり、フローリングには畳を敷いて、安全に生活できるようにしている。居室が分かるように、赤い花を飾ったり、地区の名前を書くようにしている。			